

という結果となり（図 21）、半数が庭づくりにおいてオープン外構の影響を受けていることがわかった。

開放性についての評価

アプローチが短く、目隠しもなくダイレクトに道路に接する住宅は近隣との視線の交錯も多くなり、開かれていると強く感じていることがわかった（図 22、23）。それもあって開放感を高めているという評価（74%）を得ている。それだけに窓の大きさについて、デザインのために設けられた大きな窓を活用している家もあれば、窓の大きさを気にする家もあり（図 24、25）、オープン外構においていかに開くかという部分には関しては慎重な検討が必要であるといえる。

近隣関係

過半数の回答者がオープン外構が他の家への立ち入りやすさや住民同士の付き合い、地域のまとまりに良い影響を与えていると評価している。道沿いの景観に与える影響についても高い評価（71%）を得た。また敷地面積に比例して、街並みの景観への寄与を評価する割合が高くなることが明らかとなり（図 26）、ある程度の広さがあると景観的要素を形作る余裕が生まれるのではないかと考えられる。

総合的な評価

オープン外構に対する総合評価は極めて高く（図 27）、敷地面積に比例してその評価が高くなることが示された。（図 28）また、住宅の内部生活に視線や音の影響が及ぶかどうかで評価が変わる傾向があることが明らかとなった。（図 29、30）

9. 結論

オープン外構の流行についてガーデニングとの関係を指摘したが、塀や柵のない庭をしつらえるという行為は大なり小なり外に対して見せたいという顕示的な意識が伴うものと考えられる。

本論において庭づくりへの積極性と外からの視線に於いて、外からの視線がある方が積極的に庭を飾ろうとする傾向があることが明らかとなった。また、オープン外構によって開かれた状態が他人の庭への立ち入りやすさや住民同士の付き合い、ひいては地域としてのまとまりに貢献しているという評価も得た。

これらのことから外に対して飾られた庭からの自然発生的なコミュニティのきっかけとしてのオープン外構の有効性が証明された。

オープン外構はその特性により、防犯性と開放性という一見反目し合う要素が両立している。この関係を維持していくためには外に対する閉鎖性を生み出す住宅地デザインや塀や柵がないというハード面だけでは難しい。それを機能させる健全な近隣関係の形成がオープン外構には不可欠であり、そのきっかけとして開かれた前庭は重要な役割を担っているといえる。

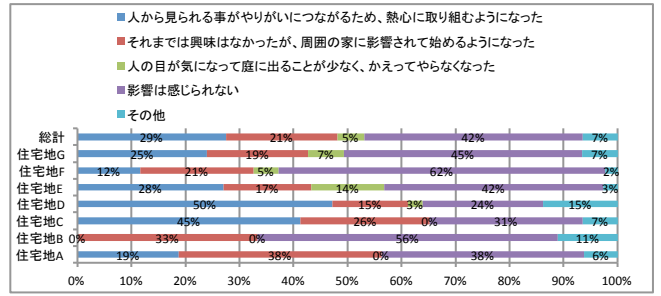


図 21 オープン外構であることが庭づくりに与える影響 n=252



図 22 住宅地 E (上)、F (下) のアプローチ

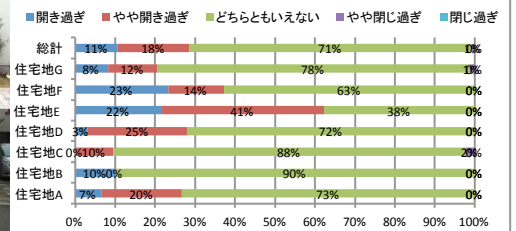


図 23 塀や柵のない開かれた状態に対する評価 n=252



図 24 住宅地 F の印象的な大きな窓

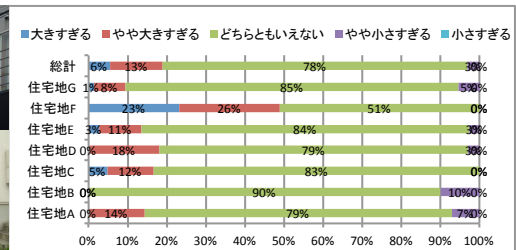


図 25 窓の大きさに対する評価 n=253

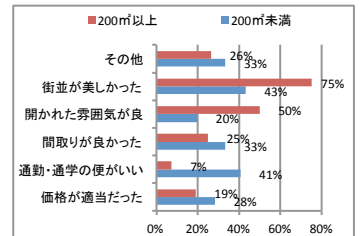
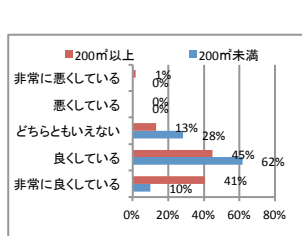


図 26 敷地面積から見た道沿いの景観に与える影響に対する評価 (左) 敷地面積から見た現在の住宅の取得理由 (右)

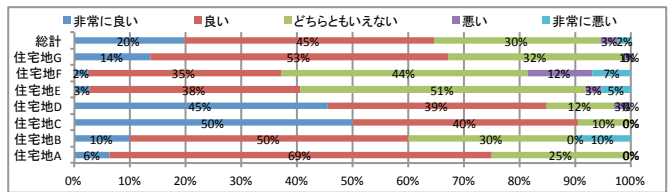


図 27 オープン外構に対する総合的な評価 n=254

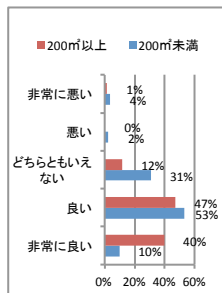


図 28 敷地面積からみたオープン外構に対する総合的な評価

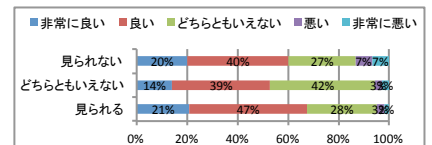


図 29 庭への視線の有無からみた、オープン外構に対する総合的な評価 n=254

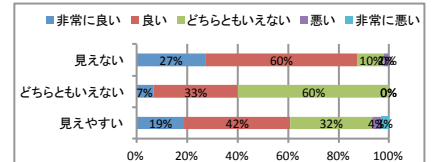


図 30 住宅内部への視線の有無からみた、オープン外構に対する総合的な評価 n=254

討 議 等

◆討議 [三谷先生]

庭のことを議論しているのはよくわかるが、それによって住まいの構えかた、プランとかその接点の部分は実際にどういうふうになっているのか。

◆回答:住宅の南面配置という原則は変わっておらず、外構がオープンな分住宅の閉鎖性もあって外との関係性を作りにくい。ただ、外へ出ようとする意識は強まっており、坪庭や中庭といったプライベートな庭を設け、そちらに対してリビングに面したデッキを設けるなどの提案はなされている。ただ、外から見える位置にデッキが設けられた場合では利用されている様子はなく、視線の影響は大きいといえる。

◆討議 [内田先生]

当初期待していたものと住み始めてから生活などがどういったふうに変わっていったか。それともう一つ、比較的オープンな環境を好む人が多く集まる中でそれでも住戸の閉鎖性は高く、メーカーも住戸そのものの閉鎖性は高めようとしているという話があったが住人の実際の生活との違いは？

◆回答:(一つ目の質問について) 購入者の多くは通勤の便利さなどのオープン外構であること以外の理由で購入している。加えて市場に出回っている殆どがオープン外構であるから購入している側面がある。

(二つめの質問について) 住戸の中を見られたくないという意見は非常に多い。総合的にはオープン外構を支持している人であっても内部は見られたくないという回答が殆どで、庭を積極的に飾っている人でも同様の回答だったことからその部分は触れられたく部分であるといえる。町家などの伝統的な日本人の昔の生活に比べると見られたくないと感じているが、最近の人はそれほど塀に委ねておらずそのへんは価値観が変わってきている。

◆討議 [倉方先生]

基本的につまらない。オープン外構を肯定するか否定するかどちらにせよ現状にぶら下がっただけでは研究とはいえない。新しくわかったことやオープン外構の可能性となるものは何かないのか。

◆回答:当初、選択肢がオープン外構しかないことか

ら選択しているという状況から否定的な意見が多いのではないかと予想していたが、実際には肯定的な意見が多くを占めた。このことから現在の住宅購入層の20、30代の価値観が変化しているとは言える。日本のオープン外構の話があったが、それまで閉鎖化していたのが最近になって町家のような近隣関係が見直されているといえ、オープン外構の住宅が流行することで近隣関係のあり方などの価値観が変わってゆくものと考えられる。

◆討議 [三谷先生]

前庭はオープンになってもプランはちっとも変わっていない。その現状に対してあなたなりの提案を反映しなければ研究を論じて意味がない。